

# 令和2年度事業計画書

令和2年3月26日

公益財団法人高知勤労者福祉サービスセンター

## 令和2年度事業計画について

クンペル高知は、昭和47年12月に「高知市勤労者互助会」としてスタートした。

昭和53年7月に制度一新により「新生 高知市勤労者互助会」として再スタートし、平成30年7月には再スタート後40周年を迎えた。この間、平成6年に鏡村・土佐山村を圏域に加えるとともに法人化を図り、平成10年に南国市が加わり、平成24年には公益法人化を図った。

今後、クンペル高知は、会員拡大を図るとともに福利厚生サービスを充実し、経営の安定化につなげていく必要があるが、令和2年10月には、高知市の会計年度任用職員約1,000人が新たに会員として入会予定であり、これを契機として、さらなる発展をめざしていかなければならない。

### 1 会員の拡大

昭和53年度末時点では加入事業所数685、会員数1,984人であり、以後、会員数が低迷する時期もあったが、法人化を契機に会員拡大が図られ、平成25年度以降は加入促進員の増員により会員数が一定伸びてきた。

その後、シルバー人材センターに委託する加入促進員を廃止し、平成30年4月加入促進員を採用配置し、会員数の拡大に一定の成果が出た。しかし、加入促進員が平成31年2月末で退職した。

令和2年度は、10月に高知市会計年度任用職員の多くがクンペル高知の会員に加入予定であり、1,000人程度の会員加入を見込んでいる。一方で、会員増に伴う事務量の増大が懸念され、また、働き方改革への対応による臨時職員等の人件費が増大し、引き続き厳しい財政運営が予測される。そのため、令和2年度は加入促進員は配置せず、確実な業務遂行に重点を置いた職場運営を予定している。なお、局長等での加入促進活動も検討していきたい。

### 2 福利厚生サービス等の充実

クンペル高知は、慶弔共済給付金や各種助成金事業を柱として、会報誌に掲載しているようなコンサートやシネマ、ランチ・ディナーなど多彩な事業を実施しており、協力関係にある事業所とさらなる連携を図るとともに、新たな事業所の掘り起こしも行い、各事業のブラッシュアップを行いながら、魅力あるサービスとして会員に提供していく。

### 3 業務等の改善

#### ○ 会費の滞納処理について

平成30年度に引き続き、令和元年度も未納事業所に対しては支払いを強く求め、それに応じない場合は強制退会とすることを前提に、厳しく対応している。今後も、こうした対応を継続していく。

#### ○ ホームページの再構築について

お知らせや募集等の記事は最新のものを積極的に情報発信するように心がけているが、クンペル高知のこうした取り組みは、先進のSCに比べれば遅れた取り組みであり、常にICT（情報通信技術）の進展を踏まえ、改善を重ねていく必要がある。

令和2年度は、全福センターが推奨する多機能型のオールインワンHPパッケージシステムの導入に向け、検討を進めていく。

## <事業計画>

### 1 在職中の生活安定事業

慶弔共済給付金／5年在会記念品(419名)／生活・教育資金貸付／介護サービス利用助成(11名)

#### ○ 在職中の生活安定をめざして

##### (1) 慶弔共済給付事業

一般財団法人全国勤労者福祉・共済振興協会との協定に基づき、各種祝金・見舞金・弔慰金の共済給付事業を推進する。

##### (2) 生活資金・教育資金の貸付事業

四国労働金庫の協力を得て実施しているが、今後も引き続き制度の周知に努める。

##### (3) 5年在会記念品給付事業

センター独自の事業として、令和2年度も5年在会の会員に対し、記念品(防災用品)を贈呈する。

##### (4) 高齢対策支援事業

在宅で介護する会員を支援するため、介護サービス利用助成事業を引き続き推進する。

##### (5) 「こくみん共済」(こくみん共済coop)、「全福ネット入院あんしん保険」(全福センター)のPRに努める。

### 2 健康維持増進事業

実施時期	行 事 名		予定人員	備 考
R2年度中	生活習慣病予防検診・人間ドック受診助成		1,120	
	プール	市営プール(温水)	400	
		県営プール(温水)	180	
		くろしおアリーナ(温水)	120	
	トレーニング	市営トレーニング	350	
		くろしおアリーナトレーニング	150	
		南国市立スポーツセンタートレーニング	130	
	入浴券	桂浜荘	250	
		オーベルジュ土佐山	50	
		三翠園水哉閣(一般・高齢者)	0	会員証掲示型に変更
		長岡温泉	480	
テニス・ゴルフスクール利用助成		7		
家庭常備薬斡旋		全会員	年2回	
7月～9月	夏期プール	市営プール(水)	170	
		県営プール(水)	100	
		くろしおアリーナ(水)	180	

○ 健康の維持増進をめざして

(1) 生活習慣病予防検診・人間ドック受診助成事業

勤労者にとって大切な健康づくりや健康チェックのために、引き続き生活習慣病予防検診や人間ドックの受診助成を推進する。

(2) 健康維持増進のための施設利用助成

「高知市トレーニング施設」「南国市立スポーツセンター・トレーニング室」「県営・市営プール」「各種入浴券」の利用助成を図る。

(3) 健康維持増進に係る斡旋事業

平成 18 年度より開始した「家庭常備薬」の斡旋事業について、引き続き斡旋を行う。

3 老後の生活安定事業

中小企業退職金共済制度 2 事業所 10 名(令和 2 年度中)

○ 老後の生活安定をめざして

「中小企業退職金共済制度」(全福センター), 「ず〜っとあんしん共済」(こくみん共済 coop) の普及・加入促進に努める。

4 自己啓発及び余暇活動事業

実施時期	行 事 名		予定人員	備 考
R 2 年度中	新入社員研修		10	4 月
	NHK 学園受講助成		10	
	交流館講座助成		90	
	旅行参加助成・航空券+ホテル <sup>レ</sup> ラン助成		80	
	映画チケット		4,620	年 6 回
	TSUTAYA レンタルチケット		70	
	ランチパスポート		1,280	年 4 回
	図書カード NEXT		600	年 2 回
	観劇・コンサート・展覧会等		1,600	
	高知市夏季大学		40	
	夏季プール	サンピアプール	900	
	ビアガーデン		905	6 か所
	食事チケット		9,359	
	ゴルフ練習場	イーグル荒倉・サンピアシリーズ	345	
	ボウリング	ボウルかつらしま		取扱い終了
ギフト斡旋(ハム等)		全会員		

開催時期を年度中としている事業は、日程及び内容が決まり次第「会報誌」でお知らせします。

## ○ 自己啓発及び余暇活動の充実をめざして

- (1) 「利用割引協定契約施設」の拡大に取り組むとともに、その利活用を推進する。また、全国のSC会員の利用推進に取り組む。
- (2) 「図書カードNEXT」の販売助成などを継続するとともに、「スターバックス コーヒーセミナー」の開催等、トレンドを押さえた事業展開を図る。
- (3) ホテル等飲食店で行なう期間限定の季節メニューなどの利用助成を引き続き実施し、より魅力的な内容で会員に提供できるよう工夫する。
- (4) 生涯学習奨励との観点から、NHK学園の通信講座、ユーキャン、高知市夏季大学、新入社員研修等の受講助成を行う。
- (5) 文化教養レクリエーション支援事業として、観劇・コンサート・展覧会・映画のチケット等の利用助成を推進する。
- (6) 自己啓発やリフレッシュなど様々なニーズに応えるため、当交流館で実施する自主講座に参加する会員への受講助成を継続する。

## 5 財産形成に係る事業

### 住宅資金貸付事業

四国労働金庫の協力を得て実施しており、近年、住宅資金の貸し付けが増加している。今後も、センター会報誌等を通じて周知に努める。

## 6 情報提供事業

・会報誌 ・ガイドブック ・利用割引ガイドブック ・全国協定案内チラシ ・ホームページ

## ○ 情報の提供

- (1) センター会報誌「クンペル高知」を隔月（偶数月）年間6回発行するなど情報の提供に努める。
- (2) ホームページや広報用動画、SNS等の活用を通じ、SC事業の周知を広く行う。
- (3) 全福センターや中・四国ブロック協議会等を通じ、全福会員向けのサービス事業に関する情報を収集し、会員への提供に努める。

## 高知市勤労者交流館管理運営事業計画について

クンペル高知としての、勤労者交流館の4期目の指定管理業務が、令和元年度から令和5年度までの5年間の予定で始まった。

建物・設備の老朽化が進んでおり、年々、修繕箇所が増えている。特に給排水管やトイレの改修等が早期に必要となっている。

貸室事業については、津波避難施設整備工事のため、利便性が一番高い玄関前の駐車場が無くなり、ただでさえ利用しづらい駐車場がさらに利用しづらくなるなど、利用者に一層の不便をかけてしまう状態となっている。このため、少しでも駐車場が改善されるよう、今年度は駐車場内の2本の楠を伐採するなど、交流館周辺の駐車場整備に現在取り組んでいる。

令和元年度の交流館の収支は、ここ数年続いていた貸室の利用率の低下に歯止めがかかったことなどから、収支は改善されるものと見込んでいる。

### 1 施設の管理運営

- (1) 「高知市勤労者交流館管理運営に関する協定書」に基づく善良な管理を実施する。
- (2) 「高知市勤労者交流館管理運営マニュアル」に基づき、利用者に対してきめ細やかなサービスに努める。
- (3) 施設・設備の計画的な修繕に向けて、今後も高知市と協議しながら取り組む。
- (4) 高知市は令和2年度には、トイレの改修工事を行う予定であり、その改善が期待されるが、工事期間中の貸室や講座への影響を見極めながら対応する必要がある。

### 2 講座事業の実施

交流館事業の収支悪化の要因の一つが、講座事業の収益性が低かったことであり、平成30年度は、年3回であった講座を年2回に減らした。また、定員を充足しても赤字となるギター、ウクレレの講座を廃止するとともに、受講料5,000円を6,000円に値上げした。この結果、平成30年度は5つの講座が全て黒字となった。

このため、令和元年度は、引き続き5講座を開講するとともに、年2回で開講していた講座を3回（ズンバは2回）に戻すとともに、利用率の低い和室で講座事業を開催することで、和室の利用率のアップを図ろうと新たな講座としてロコモ予防&スタイルアップエクササイズを開講し、令和元年度は黒字幅が増大した。

令和2年度も、元年度同様6つの講座を、年3回開講することで講座の収益を上げていきたい。

### 3 総合労働相談の実施

働き方改革や雇用問題、賃金、年金、労災、パワハラ、セクハラ等さまざまな労働に関する相談窓口として毎月1回定期的に開催している。令和2年度も高知市広報「あかるいまち」やセンター会報誌・ホームページ等で周知に努めながら引き続き開催する。

## 令和2年度ファミリーサポートセンター受託事業計画について

### 1 こうちファミリーサポートセンターについて

「こうちファミリーサポートセンター」は平成16年7月にセンターを開設し、平成16年度末の総会員数268名、活動件数323件であったものが、現在では、総会員数は約1,300名、活動件数は年間5,000件を超えている。会員の構成をみると援助会員が依頼会員の約半数であり、援助会員が手薄な地区では、なかなか援助会員が見つからずに援助活動に時間を要するケースが出てきている。

センター体制は、昨年7月に雇用したアドバイザー1名、12月に雇用したアドバイザーが1名、育休代替として4月に雇用予定のアドバイザー1名の3名体制で臨むことになる。

年3回開催する保育サービス講習会は、参加してもらいやすいよう木・金曜日、金・土曜日、土・日曜日開催と曜日を分けて開催する。また2日間通して受講するのが困難な受講者には、分割して受講できるよう、引き続き対応していく。厚生労働省の実施要綱改正により救命講習の受講が必須になるとともに、令和元年度より少なくとも5年に1回の救命講習及び事故防止に関する講習が必須になったことから、救命講習等の受講を積極的に推進していく。

高知市の「れんけいこうち広域都市圏ビジョン」に搭載された「ファミリーサポートセンターの広域連携」の事業がスタートしており、高知市子ども育成課との役割分担を明確にしながら、広域連携の取り組みへの協力を進めていく。

#### (1) 年間活動予定（概要）

- ・ サブリーダー会：年11回、10名配置予定
- ・ 交流会：会員とその家族を対象に年1回開催予定。
- ・ クリスマス会：会員とその家族に加えて一般も対象に年1回開催：毎年多彩なイベントを凝らし、センターのPRも兼ねながら、会員や一般の子育て家庭に好評である。
- ・ 保育サービス講習会：年3回
- ・ フォローアップ講習会：年4回
- ・ ふぁみさが通信の発行：年3回×2,500部、配布先：会員・保育園・その他関係施設

#### (2) 研修会・交流会出席等の予定

内 容	開催地・視察先
女性労働協会主催 全国情報交流集会	大阪
女性労働協会主催 リスクマネジメント・セミナー	大阪
高知県主催 アドバイザー研修会 1回	高知

#### (3) 関係機関との連携

- 保育所や幼稚園との連携
  - ・ ファミリーサポートセンターの事業説明
  - ・ センターと協力保育所（89園）との連絡会議 年3回
- 民生委員児童委員協議会での事業説明

## 2 なんこくファミリーサポートセンターについて

「なんこくファミリーサポートセンター」は平成29年10月に開設し、順調に会員数、活動件数が伸びている。

開設以来、アドバイザー等が精力的に子育て関連施設や各団体の会合、イベント等でPR活動を続けており、南国市の子育て家庭におけるファミリーサポートセンター事業に対する周知度は段々と高まっているものと思われる。今後も、隠れている子育て支援ニーズを掘り起こしていくために、きめの細かいPR活動を展開していく。

令和元年度に引き続きファミリーサポートセンター事業のPRに積極的に取り組んで会員拡大を図るとともに、依頼会員に安心いただける援助活動を着実に積み上げ、子育て家庭はもちろん、地域に信頼される「なんこくファミリーサポートセンター」をめざす。

### (1) 年間活動予定（概要）

- ・ 交流会：会員とその家族を対象に年1回開催。
- ・ 保育サービス講習会：年2回
- ・ フォローアップ講習会：年3回
- ・ ふぁみサポ通信の発行：年2回×300部、配布先：会員・保育園・その他関係施設

### (2) 研修会・交流会出席等の予定

内 容	開催地・視察先
女性労働協会主催 全国情報交流集会	大阪
女性労働協会主催 リスクマネージメント・セミナー	大阪
高知県主催 アドバイザー研修会	高知

### (3) 関係機関との連携

- 南国市保健福祉センター，南国市福祉事務所，こども相談所等への相談や情報共有
- 保育施設，学童クラブとの連携
- 地域子育て支援センターとの交流（意見交換・交流会参加）
- 南国市社会福祉協議会での事業説明，連携
- 南国市集団検診会場にてチラシ配布や会員募集の協力
- 地域のイベント会場にてチラシ配布や会員募集の協力
- 県内ファミリーサポートセンターとの情報交換